

ジャカルタ都市高速鉄道 南北線直流電車



写真 1 外観

要旨

インドネシアの首都ジャカルタは、近年では急速な都市化及び経済成長を遂げ、ジャカルタ都市圏の人口も急増し2016年現在では3200万人を超えている。一方、交通手段は、主に自動車・バイクに依存したままであり、深刻な交通渋滞、それに伴う経済損失及び大気汚染が懸念されてきた。これらの問題を軽減するための首都交通システムとして、インドネシア・ジャカルタ都市高速鉄道(Mass Rapid Transit Jakarta : MRTJ)がルバックブルスとブンデラン HI とを結ぶ南北線(15.7 km)の運行を2019年3月末から開始した。

日本車輛製造は、南北線向けに投入された96両(6両×16編成)の納入を担当した。この電車は、軽量ステンレス構体を採用するなど、日本国内で実績ある技術をベースとしたが、ジャカルタの気候を考慮して国内の通勤車両よりも大きな冷房能力の空調装置を搭載するなどの仕様を盛り込んでいる。また、運転保安装置は、ATO/ATPを採用し、ワンマン運転を実施している